

会員の皆様

この号は今年初めての∞メールです。

新たな年を迎え、当会は4月からの役員選挙を行いました。その結果は会員限定の頁で皆様にお伝えしました。

また当会は、これまでは学術集会と研修会を開催してきましたが、今年からは新たに研究会も開催します。

当会の目的は、ヒトが行動するメカニズムを明確にして、生活を阻害する神経活動が反復して生じる状態に対する条件反射制御法の実践技術の向上を図る学術研究の促進、並びに反復する違法行為に対応する社会制度のあり方に関する学術研究の促進をすることです。条件反射制御法の技法の向上だけでなく、社会制度のあり方にも研究の対象が及ぶのは、その技法の発展の経過で把握した行動メカニズムが、現在の刑事司法体系が一般予防効果を高くもつ一方で、特別予防効果が低く、累犯者を多く生むという欠点の原因を理論的に明らかにし、向かうべき方向を示す基盤理論になると考えているからです。また、その技法の基盤理論は進化に照らし合わせて導いたものであり、精神医学やその周辺の学問に留まるものではありません。

そのようなことから、会員の皆様には、技法の効果を向上させ、社会制度を適正なものにするために、広い領域の情報を加えて検討していただきたいと考えます。従って、今年から新たに開催する研究会では、反復する行動等に対して独特の活動を展開してきた方、あるいは興味深い技法に携わっている方、なかなか覗けない専門的な領域で活躍している方等を多様な領域から招き、ご報告をいただき、意見交換をします。

報告者の方には、報告の背景等を解説して論点と主張を示してもらい、議論を展開するものにします。先駆的あるいは特殊な技法や活動をしている方をご存じであれば、その方と報告内容の焦点を当会事務局にご連絡ください。あるいはご自身が報告される場合も同様をお願いします。

第1回研究会は2022年2月28日午後7時からZOOMで行います。

今年も反復する神経活動に囚われたヒトを回復させる方法を一生懸命、磨きましょ。

平井愼二

## ワンポイントレッスン

### 第一信号系の作用を表現する言葉に求められる正確性

平井慎二

通常の人とは幼い頃からずっと、人は考えて行動するものだと、漠然と把握して生活している。本当にそうなのかと焦点を当てて検討することを日常の生活ではまずしないが、人は考えて行動するという理解が前提になったやりとりがなされている。例えば、他者による不可解な行動に対して「何を考えて、そんなことをしたのか」のように問うことには通常、違和感はなく、「すみません」と謝ったりする。

そればかりではない。動物も、質は低いと考えて行動していると多くの人は把握しているようである。幼児向けの絵本には、動物を題材にしたものが多く、それらの絵本の中では動物は考え、話し、未来を予測し、悪意をもったり、あるいは人を助け、善意をもったりするようにも書かれている。

つまり、我々は相当な程度に、行動は考えにより生じると教育され続けてきて、大人になった。

その結果が、逸脱した同一行動を反復する者に対する刑事司法体系の専門家や精神科医療とその周辺領域の専門家による誤解となっている。逸脱した行動を働いた人を裁き、あるいは治そうとする専門家も、人は考えて行動するという誤解を前提として、逸脱した行動を次のように評価し、処遇を計画し、実行している。

裁判官や検察官、弁護士は、覚醒剤摂取や痴漢、万引き等は、意思で行う行為であるとして、刑罰の軽重に関して闘う。被告人がそれらの行為を自分で行ったと言えば、意思で行ったものと判断し、ほぼそれだけで有罪が確定する。欲求が生じて、それらの行動をしようと考えて行ったと判断するのであろう。

違法行為に責任を求められるかを判断する役についての精神科医師は、動機という言葉をもってきて、違法行為に理解できる動機があるかないかを重要な要素とすることがある。動機という言葉を使っても、理由と行動が結びつく理解できる考え方の道筋があるかないかを検討するのであり、そのような道筋があれば、動機があったと判断するようである。やはり考えがあったかなかったかを判断の焦点にしている。

精神科医療の領域では、認知という言葉があり、この作用に関してはいろいろな専門家がさまざまなことを書いているが、やはり考えのことを指すようである。また、治療の構成に記憶という言葉を取りあげる一派もあるが、特定の記憶があるから特定の行動に移るというメカニズムの始まりとして記憶を取りあげているのであり、やはり、記憶からその後の行動に結び付けるのは考えのようである。

ここまで示したように、ヒトは考えて行動するということがヒトを裁いて刑罰を与える領域、あるいは評価して治療する領域においても通常の考え方になっている。

その部分に対して条件反射制御法学会は、ヒトの本当の行動原理を見つめ、変革をもたらそうとする集まりである。

従って、ヒトは2つの中枢をもち、それらの内の1つは第一信号系であり、その第一信号系は過去の生理的成功行動を再現する中枢作用をもつことを、我々は、法律や精神科医療等の専門家に向かって、また、一般人に向かって、さらに、治療の対象となる患者に向かって、正確に伝えなければならない。

その第一信号系と、考えて未来の社会的成功行動を創造しようとする第二信号系の内、特定の行動に関して、強く作動した信号系が作る行動が生じるのである。

このワンポイントレッスンの焦点にやっとな入れる。

信号系学説を知り、ヒトの行動を評価し、対応する者は、第一信号系の作用を表現する言葉を正確に使わなければならない。

第一信号系は意識せず、判断せず、計画せず、望まず、欲せず、意図せず、予測せず、決断しない。第一信号系に刺激が入れば、過去の積み重ねで決定されている反応により、身体が動くのみである。

だから、「第一信号系が生理的報酬を獲得するために、行動を起こそうとする」と言うてはならない。

正しくは、「第一信号系が、過去に生理的報酬した行動を、生じる方向に動く」と言うべきである。

「被告人の第一信号系が、無意識的に、商品を自分のものにするために、万引きをしようとした」と言うてはならない。「無意識的に」と言いながら、「するために」および「しよう」という意識的で目的と計画を表す言葉が続いている。だから、誤りである。

正しくは、「被告人の第一信号系が、商品からの視覚刺激を受け、それを獲得する行動が無意識的に反応として生じた」と言うべきである。

第一信号系は動物のもつものである。経過においては生き生きと変化するが、一時点においては機械のように決められたように作動するのである。

言葉の表現の誤りを言葉の上のことであるから小さな問題であるとしてはならない。それらの意識的で目的と計画を表す言葉を、第一信号系の作用を表す際に使うと、我々の頭の中では、第一信号系が未来の行動を目的として、それを計画したという誤った考えが1回生じる。また、その発言は周囲からの反論を受けず、誤った発言をした本人は受け入れられたと考え、成功したと把握し、強化される作用を受ける。その反復により、その誤解を辿った考えの神経活動は強化が重なり、第一信号系に定着する。議論を行う際、あるいは論文を書く際に、第二信号系を作用させているようで、実はそうではなく、言葉の誤用を反復した結果

として第一信号系に強く影響され、第二信号系では自由度がごく僅かに制限された思考が作動し、第一信号系があたかも第二信号系のように作用するものとして、言葉を発し、文章を書いてしまう。

つまり、言葉の誤りは評価を誤らせ、治療技法や対応体系の構成の誤りに至り、それらは効果の不良なものになり、個人を助け切れず、社会を支え切れない。

## 事務局からのお知らせなど

### 理事会の報告

2022年1月9日と2月6日に開催された理事会で、検討された事項を報告します。

#### 1. 役員選挙について

2022～2023年度の役員が無投票で決まりました。

今月1日に会員の皆様へお送りしたメールに、選挙結果を伝える会員限定頁のURLが記載されています。

#### 2. 研究会

反復する行動等に対して独特の活動を展開してきた方、あるいは興味深い技法に携わっている方、あるいはなかなか聞けない専門的な領域で活躍している方等による講演を聴き、意見交換をします。

##### ●第1回研究会

テーマ：刑事司法体系による治療の強制に関する実際と法

報告者：会員 尾田真言（NPO法人アパリ 事務局長）

日時：2022年2月28日（月）19：00～21：00

会場：Zoomによるライブ配信

参加費：会員1,000円 非会員3,000円

##### ●今後の開催予定

テーマ：海獣類における問題行動への対応

報告者：非会員 勝俣浩（鴨川シーワールド館長）

日時：未定

会場：Zoomによるライブ配信

参加費：会員1,000円 非会員3,000円

### 3. ∞連携の展開について

当会の目的の一つは、反復する違法行為に対応する社会制度のあり方に関する学術研究の促進です。特に刑事司法体系によるさまざまな違法な同一行動の反復に対する評価と処遇には大きな問題があります。反復する行動には薬物乱用、万引き、性的逸脱行動、ストーカー行為等があり、基本的には∞連携が合致しますが、各行動間には刑事司法体系による証拠集めなどの対応の詳細に差異があり、援助側はそれに応じて変化しなければなりません。各行動に関して知識を深くもつ理事が、各行動の処遇に関して問題点を整理し、当会が効果的に解決を検討する方針が話し合われました。

#### CRCT を受けられる施設を公開しています

条件反射制御法を受けたい方に、どこにいけばこの技法が受けられるかを伝えるため、当会のホームページ [CRCT 実施施設](#) で公開しています。現在 27 施設です。

ご協力いただける方は事務局のメール、[crct.mugen@gmail.com](mailto:crct.mugen@gmail.com) 宛に下記項目をお送りください。

- ・ 貴施設名、所在地、電話番号、メールアドレス、ホームページURL  
(施設写真の掲載希望がございましたら画像データを添付してください)
- ・ 申込窓口 (担当部署・担当者名等)
- ・ コンタクト方法 (例：電話、E-mail、HP 申込フォーム)
- ・ CRCT を提供している場  
(例：入院病棟、外来、カウンセリングルーム、回復支援施設等)
- ・ 対象にしている疾病
- ・ 施設の特長 (フリーコメント なんでもどうぞ)

#### 援助側と取締処分側の∞連携支持施設を紹介しています

治療を求めた患者による規制薬物使用への対応として、患者の治療意欲と社会の平安を保つ観点から効果的であり、また、司法の観点からも合法と考えられる方法を採用し、実行に移している施設を当会のホームページ [∞連携支持施設](#) で公開しています。現在 6 施設です。

∞連携に沿う態勢で実務をされており、当会のHPに∞連携支持施設として掲載可能な場合は事務局のメール [crct.mugen@gmail.com](mailto:crct.mugen@gmail.com) 宛にその旨をご連絡くださいますようお願いいたします。

## 条件反射制御法に関する研修会・実地研修等のご報告のご案内

現時点で開催を予定している研修会をご案内します。

次の研修会は条件反射制御法学会が開催するものではなく、下総精神医療センターが開催するものです。

- ・第15回条件反射制御法研修会（2日間）

日時：第1日 2022年3月10日（木）13:00～17:00

第2日 2022年3月11日（金）13:00～17:00

場所：Webexによるライブ配信

### ご投稿について

条件反射制御法研究および∞メールへ奮ってご投稿ください。

宛先：事務局 crct.mugen@gmail.com

- 条件反射制御法研究

学会誌「条件反射制御法研究」は年一回発行しています。投稿規定は最終号の巻末に掲載されています。ご投稿をお待ちしております。

- ∞メール

CRC Tや信号系学説に関係する小論、CRC Tを用いての治療体験あるいは回復した体験、実地研修の体験、他の学会で報告した感想、裁判でCRC Tの効果が認められた体験等に関して1600字程度の報告をお待ちしております。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:090-3047-1573 FAX:050-3458-0214